



沼田畳内装株式会社

沼田

秀和

No.46



畳のシェアがすごく減っている。今の家は、ほとんどフローリング。冠婚葬祭を自宅でしなくなっただという生活習慣の変化も大きな影響を与えている。大きな和室が必要なくなった。」

今回ご紹介するのは沼田畳内装株式会社。

「昔は、畳を年に一回上げて、風を通すことをしていた。今は、畳自体の素材が変わってきたこともあるが、末代まで上げなくなっただ。」

「ぼくも、家の畳を上げている記憶はない。」

「本来の日本間は呼吸をする。今は高気密、高断熱。言い換えればビニールの中で生活しているのと同じ。だから24時間喚起しなさいと。」

「それに比べて、畳や塗り壁は、湿気を吸収して吐き出して。それが本来の人間の生活らしい家だと思えます。」

世界から見ても、日本のようにここまで高気密にこだわる国はない。」

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人とのつながり」で紹介していきます。



日本間と洋間の違いは、他にもある。日本間で座って人と話をするとき、前屈みになる。洋室の部屋でソファや椅子に座って話すと、仰け反ってしまう。

「日本間というのは人間と人間のふれあいとか礼儀ができあがっている空間だと思います。」

「そういった意味で、和というものを今一度再認識する必要があります。和というものは、畳業界も、もともと元気になっていかなければいけない！業界全体で努力が必要だと思います。」

ただ、小矢部に畳屋さん3件に減った。

「この業界、後継者不足が一番大きな問題になっている。」



「以前日経トレンドで100年後に残っているベスト100の中に畳が入っていた。日本の文化、心として残るだろうと。これは、ちょっと嬉しかったなあ。」



日本人は靴を脱ぐ習慣がある。これは畳があるから土足禁止になっている。日本人が靴を脱ぐ習慣がなくならない以上、畳もなくならないはず。ただ、そういった形で畳が残るか、こも大きなポイント。

「畳が特別なものとして残れば、職人と芸術家の違いと一緒に、商売としては成り立たなくなってしまう。趣味・道楽の世界に。あくまでも日常的なものに残したい。」

話は、畳から日本の伝統について。さらに地域についての話題に広がった。

「地元の獅子舞をすごく大切にしています。盆踊りにしても、屋台にしても地域ぐるみでのコミュニケーション事業、世代を超えた交流が大切な気がします。」

現在、そういった地域コミュニティ事業が、どんどん減ってきている。

「お祭りは、地域の子供を地域で育てる」という役割もある。良いものを残していかないといけないし、伝えていかないといけないと思う。」

やめることは簡単だけど、続けるということは

大変だけど、大切なこと。いいものはいい、アカンものはアカン。

若い時は、こんなこと考えた事もなかったんやけどなあ。」



取材当日、ちょうど社員の方が結婚し、新婚旅行から戻ってきて挨拶にいられていた。

着物と畳。ともに残していくべき日本の心だと感じた。



畳・クロス・壁紙・カーテン・床・障子・襖

**沼田畳内装株式会社**

富山県小矢部市水島261 番地  
TEL : 012-0-612 -781 FAX : 07 66 -61 -4187  
<http://www.numada-interior.com/>

プレゼント



自然の魅力たっぷり、小さな温もりをあなたも体感。  
**お盆とコースターセット 5名様**

募集期間：平成22年11月15日(月)まで  
PC・携帯からのご応募：<http://www.startaro.com/shop/OYABE> SNS会員様はキャンペーンに自動応募されます  
Oyabe Local SNS：<http://www.sns.startaro.com/>

